

会員の皆様からの声 「“古文書愛好会”のご紹介とお誘い」 2025.10



2024 年撮影

メンバーは徐々に減っているものの、現在5人。部長一人を除いて、全員が古文書初めてのズブの素人です。第二金曜と第四金曜を定例会として、一日2時間弱、年に20回程度、一堂に会して解読に取り組んでいます。

昨年の初めまで取り組んできた古文書は、江戸後期(文化・文政期)のややプライベートな武家文書「秘見録」ですが、到底スラスラと読むわけにはいきません。

メンバーの実力もさることながら、当然ながら江戸時代なりの文書の約束事や用語があり、なによりも書き手独特の強い書き癖があり、その上古文書には虫食いも随所にあるので一筋縄ではいかないのです。そんな時は文字通りメンバー全員で鳩首協議、井戸端会議的に推理力を働かせ、古文書字典を引きまくって何とか突破していくことにしています。

こうして、昨年からはその他の武家文書にもトライ、今年は行田の在方の割役名主が認めて大切に保管してきた文書にも挑戦し始めています。

活動は読むだけでは終わりません。これまでに手掛けてきた文書は、もともと郷土博物館から提供して頂いた未読の古文書のごく一部にすぎません。読み終えた段階で学芸員の先生に監修して頂きたいと考えているので、定例の学習会が終わる都度、読み終えた部分を「読み下し文」として浄書入力するのがメンバーの日常活動ということになります。

江戸時代は文書主義であり大量の古文書が残されていますので、日常、あちこちの展示などを通じて触れる機会も多いかと思います。そんな折に例え部分的にでも何とか自分の力で読むことが出来れば、かなりの手応え感を得られるのではないのでしょうか。頻出する文字なら覚えてしまっただけで日常的に使うというのも一興かと。

いずれにしても痴呆症の防止にはもってこいではないでしょうか。

メンバーの実力はドンぐりの背比べ状態ですが、いずれも気の置けない心優しいオヤジばかりです。どうぞあまり気負わずに肩の力を抜いて、是非ともご参加下さいませ。一緒にチャレンジしてみましょう。

文：奥田 匠